

外来語の表記・発音について 「ウィ・ウエ・ウオ」か「ウィ・ウェ・ウォ」か

平成24（2012）年2月9日（木）、放送センターで第1356回放送用語委員会が開催された。今回は、外来語の表記と発音（「ウィ・ウエ・ウオ」か「ウィ・ウェ・ウォ」か）について議論された。

議題

第1348回放送用語委員会（平成23年10月14日）で、外国語・外来語の表記と発音について、意見交換を行った¹⁾。今回は「wi/we/wo」のカタカナ表記に問題を絞って考える。現在のNHKの表記のルールは次のとおりである。

●カタカナ表記の基本方針

外国語・外来語や外国の地名・人名などの表記は、それぞれのことばの日本語化の程度を考慮し、次のように扱う。

1. 原音とは異なる慣用が熟しているものは、慣用の形を尊重する。
2. 慣用が熟していないものは、なるべく原音に近く書き表す。

●「wi/we/wo」のカタカナ表記の原則

NHK（新聞協会、各新聞社、通信社も同様）

原音〔wi・we・wo〕は次のように扱う

- （1）原音に近く書き表す場合は「ウィ・ウエ・ウォ」と書く。

例 スウェーデン Sweden（地）

ミルウォーキー Milwaukee（地）

- （2）一般的には「ウィ・ウエ・ウオ」と書く。

例 ウイスキー whisky

ウエディング wedding

- （3）慣用により〔wi〕を「イ」と書くものがある。

例 サンドイッチ sandwich

スイッチ switch

- （注）地名・人名は「ウィ・ウエ・ウォ」と書く。

例 ウィルソン Wilson（人）

ウェールズ Wales（地）

今回、外来語の表記と発音について取り上げるのは、日本新聞協会が、外来語の表記について検討を始めることになったためでもある。NHKもその検討に参加するが、NHKとしての意見を示すためにも、用語委員会で議論を深める必要がある。今回の用語委員会では、「wi/we/wo」の表記の基本方針およびカタカナ表記の基本方針について、意見を聞く。

意見

（「wi/we/wo」の表記原則について）

井上由美子委員：「カタカナ表記の基本方針」には賛成だが、「wi/we/wo」の表記の原則（2）「一般的には“ウィ・ウエ・ウオ”と書く」という部分には違和感がある。英語教育を受けたかどうかで感覚に違いがあるのではないかと思う。語を外来語としてとらえているか、英語としてとらえているかの差だと思う。特にこれから小学校で英語教育も始まる。今後ますます、英語の単語としてとらえる人が多くなる。そうすると「wi/we/wo」を一般的には「ウィ・ウエ・ウオ」と書くというのは現実的ではなくなってくる。「whisky」の発音も、単独であれば〔ウイスキー〕だが、「Scotch whisky」だと〔スコッチウイスキー〕になるのではないか。

野村雅昭委員：原則の問題として処理できるものと、調査をして、その結果にもとづいて決めるものがある。調査をすることには賛成である。アナウンサーなどNHKの番組に出ている人たちが、番組で実際にどのように発音しているのかを調査してもらいたい。統計的な意味を持たない個別の例でいいと思う。たとえば、地方で行う放送用語委員会の議題

から該当の語を取り出して発音を聞いてみるというやり方でもいいと思う。

井上史雄委員：今回議題にあがっている「wi/we/wo」について整理してみる。〔wa〕〔wi〕〔wu〕〔we〕〔wo〕のうちで〔wu〕は日本語に存在しなかった。〔wa〕は現代でも残っている。〔wo〕は意識としては存在している音で、「正書法」の表記として使われている。〔wi〕〔we〕は平安時代にはあり、1,000年かけてだんだんなくなってきた。それが最近復活しつつある。全国民が〔ウィ・ウェ・ウォ〕を使いこなすようになるまではもう少し時間がかかる。私たちは、この音が復活するプロセスを見ているということになる。おじいちゃんの世代は〔ウィ・ウェ・ウォ〕をまったく発音できなかったが、若い人たちはできるようになってきているということを目の当たりにしている。変化の途中なので、個別に論じるべきものだが、われわれとしては大原則を考えるべきである。NHKの外来語の表記の原則は東京オリンピックの頃に問題になった。国もNHK、新聞協会も「原音」を気にしている。東京オリンピック当時のように外来語があまり使われていなかった時代は「原音」を気にしてもいい。しかし、現代は外来語が普及しており、一般の人たちもかなり外来語を使っている。一般の人やアナウンサーが実際に発音している形を基準にすれば簡単だろう。①慣用の形を尊重する、②慣用が熟していないものについては個別に考える、ということでもいい。たとえば、野球選手でよく使われる人名は慣用の形を尊重してもいいし、そのときだけ使われるような人の名前は慣用が熟していないので、その時々で考えることになる。地名も別にして考えるのではなく、慣用があるのか、新しく使われる地名なのかで判断をすればいいだろう。こうすれば原則が単純化できる。慣用が熟していないものだけ検討すればいい。資料²⁾はおもしろい。「話し言葉コーパス」³⁾とウェブ検索との結果が異なることがあるということがわかる。ウェブでは「新ワ行音（ウィ・ウェ・ウォ）」が多く、「話し言葉コーパス」では「割った発音（連母音・ウィ・ウエ・ウォ）」が多いようだ。表記するときはカッコいい表記を選ぶ意識があり「新ワ行音」を使うが、話すときには自分が話しやすいように発音する、ということだろう。アナウンサーに対して調査を行うことに賛成である。

調査の方法は、平成18年に用語班が行った外来語の「音声認識調査」⁴⁾をそのままアナウンサー対象で実施するというやり方もある。

清水義範委員：「カタカナ表記の基本方針」にある「慣用が熟しているもの」「熟していないもの」というのはうまい言い方である。まさにこのとおりだろう。昔入ってきて、発音とは違っているけれども、そう書くのが日本語になってしまっているものについてはそのままではしょうがない。しかし、新しく入ってきたものは、できるだけ原音どおりにいこうという基本方針である。うまい言い方で、そうだろうなど感じる。慣用が熟しているものは古いままでいいのではないかと思う。自分で文章を書いたときに、校正者から注意が入ってくることがある。外来語の場合、指摘は「このつづりだからこのカタカナはこの表記なのではないですか?」となることが多い。私たちは日本語としてとらえているのだから「つづり」を持ち出さないで欲しい。そのつづりでどの国も同じ発音をしているわけでもない。耳にどう入ってくるかが重要なのではないか。

荻野綱男委員：日本語の問題なので、日本語の中で考えるようにしたほうがいい。スペリングについて考えるというのも本来はおかしい。多くの人にとっては、日本語でどう書くかということと、どう発音するかというのは別の問題。こう書いてあるからこう読まなくてはいけないということはあまりない。しかし、NHKは発音と表記を一体化しており、書いてあるとおりに読むことにしている。アナウンサーとしてはそうかもしれないが、そこが多くの人の意識とのズレになってしまう。外来語を「発音する場合」、「目にする場合」で違いがあるだろう。そのあたりをしっかりと調査しないとなんともいえない面がある。両方の観点を取り入れて考えていくしかない。調査にもとづいて考えるというのは、妥当なところだと思う。保守的なところに合わせつつ、年齢差を確認できたら、「ウィ・ウェ・ウォ」を基本にするなどの判断をしてもいいのではないか。外来語表記の実態を見るためにウェブ検索⁵⁾をする場合の注意に触れておく。まず、ウェブの結果は若者の傾向が出てくる。書き手に若い人が多いので、ウェブでさぐると、日本人の平均より若手の意見が出てくるだろう。やや先進的な表記で、将来を見越した傾向が

出る。かたよりを意識していくつかのデータの1つとして扱うべきである。またYahooを使って検索する場合には注意が必要である。一昨年からYahooの検索方法が変わってしまい、今は、Googleを検索エンジンとして使っている。Googleの最大の欠点は検索結果が不安定になってしまうという点。同じ語を調べて、午前と午後で1万倍結果が違うことがある。こうした不安定さをYahooも引き継いってしまった。日本語を検索できる検索エンジンの中ではgooが採用しているものの検索結果がいちばん安定しているようだ。件数はYahooに比べると少ないが、ウェブの検索結果は数の多さではなく、安定した結果を出してくることが大切である。

(今後の原則作成と考え方について)

井上由美子委員：原則は新しく入ってきた語をどう書き表すかというときに必要なものだと思う。たとえば、「WEB」「AWAY」などは、今の原則がなければ、最初から発音に近い「ウェブ」「アウェー」で書いていただろう。「ウィ・ウェ・ウォ」を本則にしているところに違和感があるので、「ウィ・ウェ・ウォ」を入れることを検討して欲しい。「イエ」「グア・グイ・グエ・グオ」「ツア」などのカタカナ表記については気にならないのに、「ウィ・ウェ・ウォ」だけは気になるのはなぜだろうか。日本語を勉強する外国人は日本語の母音の多さに苦労するという。「東欧を覆う大きな雲」はほとんどが「お」だが、どう発音し、どう書けばいいのか難しいようだ。「ウィ・ウェ・ウォ」の表記も外国人が日本語を勉強する場合に難しく感じられるだろう。くわしく調査し、検討したうえで、「ウィ・ウェ・ウォ」を本則としてもいいのではないか。

野村雅昭委員：まずは発音をかためる必要がある。NHKとしてこう発音すると決めることは簡単にできるものではないが、これをやらなければ原則は作れない。原則に例外があるのはやむを得ないが、原則がきちんとなしと無理である。発音と表記がズレたらどうするか。新聞と放送がズレたらどうするかということについては、もう、腹をかためるしかないだろう。NHKは発音を原則にしている、としか言えない。原則をどうたてていくかということのほうに集中すべきだ。そのうえで、どこまで例外、許容を認めるか。本則を決めて、そのほかに第1の

表記と許容として第2の表記を決める語や、例外を考えることになる。例外や許容をできるだけなくしたいと思うのが現場の要望だろう。しかし、どんな原則をたてても、例外はある。例外をできるだけ少なくして、原則と例外で割り切って見ていけないかと思う。

井上史雄委員：NHKと新聞協会は今まで同様の表記をとっていた。しかし、今のような議論を踏まえると、NHKは新聞協会で決まったことを採用するのではなく、いろいろな調査を踏まえて、現実の発音はこうだから、NHKではこういう発音をしますと決めてよいのではないかと思う。2つ以上の表記を認めて、第1の表記、第2の表記というように順位をつけてもいい。むしろ新聞協会に先行してNHKが発音を基準にしたリストを作ってしまうほうがいいのではないか。新聞協会が表記をもとにして「ウィ・ウェ・ウォ」をとるということであってもいいだろう。新聞と放送の表記が異なると、視聴者から問い合わせがきた場合には、NHKはアナウンサーの発音を基準に表記を決めており、新聞の表記とは別であると答えればいい。現在、外来語をアルファベットで書く人がいる。漢字、ひらがなの中にアルファベットが入ってくる。遠い将来だが、大きな流れとして外来語は英語のつづりをそのまま書くということになるかもしれない。「ウィ・ウェ・ウォ」を採用するかどうかというのは古い面倒な議論で、アルファベットを採用すれば迷わなくてすむじゃないか、という話になるのかもしれない。

清水義範委員：書き方と発音の一致はとても微妙である。書く場合は「ウィ・ウェ・ウォ」のほうがかっこいいから、そう書く人が多い。読むときには昔ながらの発音をしているのだろう。[ゴールデンウィーク]と読んでいて、これをそのまま書くと時代的にかっこ悪いということで「ゴールデンウィーク」が多く書かれるのだろう。書き方は今ふうになってきていて、読み方はついてきていない。表記と発音が離れている傾向が見られる。問題と言われれば問題だが、しょうがない。かっこいいから書くということはあるし、読み方は読みやすいほうをとってしまうもので統一できるようなものではないのかもしれない。

荻野綱男委員：慣用が熟しているものについては結局、一語一語という面が出てきてしまうので、それ

でもしかたがないのかもしれない。NHK など、報道する立場から考えると、緊急を要するような場面で新しい地名や人名が出てきた場合、一語一語決めるというのは難しい。やはり原則を決める必要があるだろう。「ウィ・ウェ・ウォ」がこれから主流になっていくだろうと思う。どのタイミングで原則を変えるかという問題もあるが、そういうふうにしてしまったほうが時代にあっているように思う。ただ、今、そう変更するかどうかは悩むところ。方向性ははっきりしており、そういうふうに決めてしまっていだろう。発音するときは別でしょうがないだろう。

事務局:「wi/we/wo」がどのように発音されているのかを調べ、NHK としての考え方をかためることにしたい。外来語の表記と発音については、平成 24 年度の放送用語委員会で引き続き検討を重ねる。

山下洋子 (やました ようこ)

注:

- 1) 山下洋子 (2011)「放送用語委員会 (東京) 外来語の表記と発音について」『放送研究と調査』第 61 巻 12 号

- 2) 表参照。表中にある「Yahoo 検索／割った発音 (ウィ・ウェ・ウォ) の割合」「Yahoo 検索／新ワ行音 (ウィ・ウェ・ウォ) の割合」は Yahoo で該当の語を検索した際に、「ウィ・ウェ・ウォ」の表記を使っていたものの件数と「ウィ・ウェ・ウォ」の表記を使っていたものの件数を割合にして示したものの
- 3) 国立国語研究所が中心になって日本語の自発音声を大量にあつめて多くの研究用情報を付加した話し言葉研究用のデータベース。2004 年発表。収録されているデータは、学会講演、模擬講演などを中心にした語
- 4) 調査の概要
調査名: 音声認識度調査
調査時期: 平成 18 年 4 月 7 日～16 日
調査方法: 調査員による個別面接聴取法 (49 の外来語の 2 とおりの読みを録音した CD を調査対象者に聞いてもらう)
調査対象: 全国満 20 歳以上の男女 282 人
- 5) 表で示した「Yahoo 検索／割った発音 (ウィ・ウェ・ウォ) の割合」「Yahoo 検索／新ワ行音 (ウィ・ウェ・ウォ) の割合」のもとになる Yahoo 検索結果

第 1356 回放送用語委員会 (東京)

【開催日】平成 24 年 2 月 9 日 (木)

【出席者】井上史雄 氏, 井上由美子 氏,
荻野綱男 氏, 清水義範 氏, 野村雅昭 氏,
森本和憲 NHK 放送文化研究所長 ほか

表 wi / we / wo 関連の単語

NHK 表記	新ワ行音を使った場合	Yahoo 検索 割った発音の割合	Yahoo 検索 新ワ行音の割合	「話し言葉コーパス」に出現する発音
スイミング	スウイミング	100%	0	スイミング: 2 件
ツイン	ツウイン	100	0	ツイン: 1 件
スイッチ	スウイッチ	99	1	スイッチ: 8 件
アワード／アワード	アウワード	98	2	アワード: 1 件
ウェアース	ウエファース	85	15	ウェアース: 3 件
サンドウィッチ	サンドウイッチ	84	16	サンドウィッチ: 2 件
ウイスキー	ウイスキー	71	29	ウイスキー: 2 件
ウエスタン	ウエスタン	68	32	ウエスタン: 1 件
ウインカー	ウインカー	66	34	ウインカー: 1 件
ウィルス	ウィルス	63	37	ウィルス: 8 件
ウイナー	ウインナー	61	40	ウイナー: 1 件 (ソーセージのこと)
ウエイト	ウエイト	53	47	ウエイト: 5 件
ウインタースポーツ	ウインタースポーツ	49	51	ウインタースポーツ: 2 件
ウインドーショッピング	ウインドーショッピング	49	51	ウインドーショッピング: 1 件
ウイנק	ウイנק	46	54	ウイנק: 1 件 (歌手名)
ウエット	ウエット	28	72	ウエット: 1 件
ウエイトレス	ウエイトレス	26	74	ウエイトレス: 1 件
ウォッチング	ウォッチング	25	75	ウォッチング: 1 件
ウィンドウズ	ウィンドウズ	25	75	ウィンドウズ: 9 件
ウェア	ウェア	22	78	ウェア: 2 件 / ウェア: 51 件
ウェーディング	ウェーディング	16	84	ウェーディング: 1 件
ストップウォッチ	ストップウォッチ	15	85	ストップウォッチ: 1 件
スエットスーツ	スウエットスーツ	15	85	スエット: 4 件
ウィスパー	ウィスパー	14	86	ウィスパー: 11 件
ゴールドデンウィーク	ゴールドデンウィーク	14	86	ゴールドデンウィーク: 3 件
バードウォッチング	バードウォッチング	13	87	バードウォッチング: 1 件
ウィーク	ウィーク	10	90	ウィーク: 9 件
ウェーブ	ウェーブ	10	90	ウェーブ: 2 件
ウォームアップ	ウォームアップ	9	91	ウォームアップ: 1 件
ウォッチ	ウォッチ	8	92	ウォッチ: 2 件
ワイザード	ワイザード	8	92	ワイザード: 13 件
ハイウェー	ハイウェー	8	92	ハイウェー: 1 件
ソフトウエア	ソフトウエア	7	93	ソフトウエア: 9 件
ウォーキング	ウォーキング	6	94	ウォーキング: 1 件
ウォーミングアップ	ウォーミングアップ	6	94	ウォーミングアップ: 1 件
ハードウェア	ハードウェア	6	94	ハードウェア: 4 件
ブロードウェイ	ブロードウェー	5	95	ブロードウェー: 1 件
ウォーター	ウォーター	2	98	ウォーター: 3 件
ウォール	ウォール	1	99	ウォール: 1 件 (人名)
ウェブ	ウェブ	0	100	ウェブ: 60 件